

報道関係各位
企画展のご案内



fig.1
展覧会ポスター

「D計画」とは、『日本沈没』の作中で遂行されるプロジェクト名。

「D」はディザスター (disaster) = 災害を意味する。人類と宇宙の関係性を追求し、自然災害や人類が引き起こす戦争など大いなる災いへの危険を訴え続けた小松左京の(文学)こそ(D計画)そのものであった。

広報に関するお問い合わせ: 世田谷文学館学芸部 佐野、原

157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10 TEL 03-5374-9111/FAX 03-5374-9120

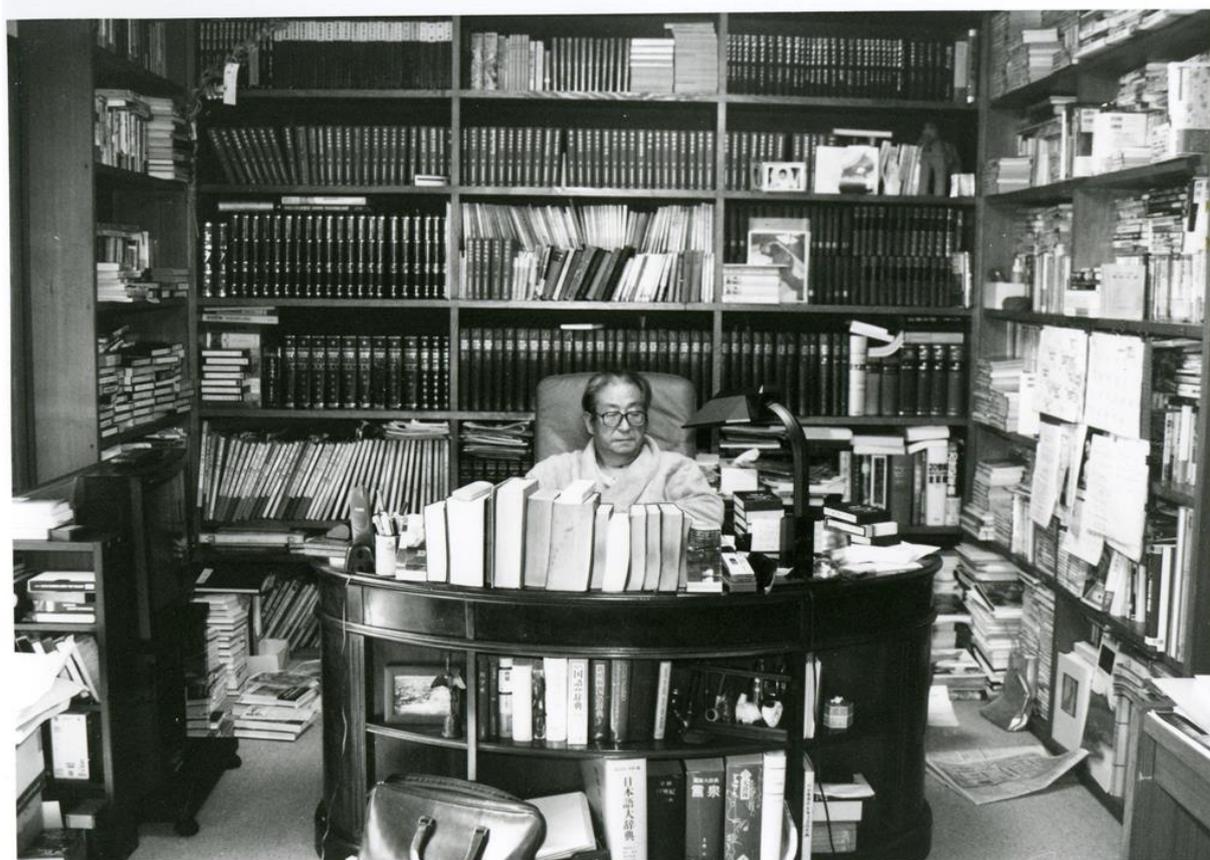


fig.2
自宅書斎にて(撮影:乙部順子)

Summary

小松左京展—D計画—

『復活の日』『果しなき流れの果に』『日本沈没』『首都消失』ほか、壮大なスケールで描いたSF大作の数々で、絶大な支持を得ている小松左京(1931-2011)。作品は、徹底した取材・調査と膨大な知識・想像力によってつくられ、その迫力と高いエンターテインメント性に読者は圧倒され続けてきました。しかも作品に描かれている地球規模で起こる災害や世界の変化が、今、現実として我々の目の前にあらわれていることにも、驚異的と言わざるを得ません。

これらを生み出した小松左京とは、いったい何者なのか。

本展は多彩な資料をもとに、小松左京という壮大な宇宙に挑みます。

*「D計画」とは、『日本沈没』の作中で遂行されるプロジェクト名。「D」はディザスター(disaster)=災害を意味する。人類と宇宙の関係性を追求し、自然災害や人類が引き起こす戦争など大いなる災いへの危惧を訴え続けた小松左京の〈文学〉こそ「D計画」そのものであった。

Profile

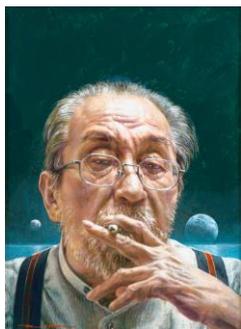


fig.3
生頼範義「小松左京氏肖像」(「小松左京マガジン第29巻表紙画」2008年)

小松左京(1931-2011)

大阪生まれ。京都大学(イタリア文学専攻)在学中から文学活動を開始。高橋和巴らと交友を深める。卒業後は経済誌記者、放送作家などを経て1962年『SFマガジン』に登場。以来、次々と大作を発表し、日本SF界を牽引する。代表作に『復活の日』『果しなき流れの果に』『日本沈没』(日本推理作家協会賞・星雲賞)『首都消失』(日本SF大賞)『虚無回廊』など。ほかノンフィクション作品、大阪万博のテーマ館サブ・プロデューサーなど、多分野で活躍。

Topics

宇宙にとって知性とは何なのか。そしてその知性が虜になる「文学」とは何なのか。

やはりこう言うておこう。

SFとは文学の中の文学である。そして、SFとは希望である——と。

小松左京『SF魂』より

Topic1 作家・小松左京の誕生

小松左京は、京都大学でイタリア文学を学び、大学を拠点とする「京大作家集団」で、作家・高橋和巳と出会い親交を深めました。高橋とはその後も同人誌を創刊するなど、創作活動を共にしていきます。大学卒業後も小松の「文学」への志は変わりませんでした。漫画・漫才台本の執筆、雑誌記者などさまざまな職を転々する時期がしばらく続きます。

しかしついに1959年創刊された「SFマガジン」で世界のSF作品と出会い、「SF」こそが自らの表現にふさわしいジャンルと決め、本格的にSF作品を書き始めます。

本展では、作家・小松左京が誕生するまでを、学生時代の貴重な資料等とともにたどります。

Topic2 小説『日本沈没』再読

『日本沈没』(1973年刊)は売上累計470万部、2回にわたる映画化やテレビドラマなどを通じて、日本人なら誰もが知っている小松左京の代表作です。タイトルから既にその結末が示されている衝撃作ですが、本作の一番の衝撃は、結末に至るまでの精緻なシミュレーション、さまざまな立場で巻き起こる人間模様、登場人物たちの切実な心情の吐露、そして、小松自身の思考ともいえる「日本」「日本人」論の展開など、濃密な時間と空間がこの一作に凝縮されていることでしょう。

本展では、『日本沈没』をあらためて読み込み、これこそが小松文学の醍醐味、極上のエンターテインメントであることをお伝えしていきます。

Topic3 「大阪万博」での活躍

1970年開催の「大阪万博」は、6400万人を上回る来場者があり、戦後日本の歴史的催事として今も語り継がれています。小松左京は、この「大阪万博」のテーマ館サブ・プロデューサーとして尽力しました。小松は当時30代、執筆活動やラジオ番組のレギュラーなど多忙を極める中、国家的プロジェクトにどのように挑んだのでしょうか。そのバイタリティーあふれる姿を、本展初公開の資料も交えて紹介します。



fig.4

「大阪万博」テーマ館スタッフ参加記念の盾
万博ではテーマ館のサブ・プロデューサーを務めた。

Events

1. オープニング記念対談「小松左京とSF蜜月時代」

小松左京とともに日本SFを牽引し、親しく交友されたお二人による豪華対談です。

10月13日(日)17:00~18:00 [出演]筒井康隆(作家)、豊田有恒(作家)

[会場]1階文学サロン[参加費]1000円[定員]150名

[申込方法]完全前売制/ローソンチケット/9月13日(金)10:00~販売開始 Lコード:32147

2. 『日本沈没』(2006年版)トーク&上映会

2006年版の樋口監督、科学監修の巽さんによる記念トークイベントです。

12月7日(土)13:00~18:00

[出演]樋口真嗣(映画監督)、巽好幸(マグマ学者・神戸大学海洋底探査センター教授)

[会場]1階文学サロン[参加費]1000円[定員]150名

[申込方法]完全前売制/ローソンチケット/11月1日(金)10:00~販売開始 Lコード:32163

3. 記念対談「誰も語らなかった小松左京」

コマケン(小松左京研究会)創設メンバーのとりさんと、とりさんから女版・小松左京の称号を得ているヤマザキさんによるスペシャル対談です。

12月14日(土)18:00~19:30 [出演]とり・みき(漫画家)、ヤマザキマリ(漫画家・随筆家)

[会場]1階文学サロン[参加費]1000円[定員]150名

[申込方法]完全前売制/ローソンチケット/11月1日(金)10:00~販売開始 Lコード:32182

*上記イベントのお申込みはローソンチケット(全国ローソン・ミニストップ)にて。<https://l-tike.com/> tel.0570-000-777 (当館での購入は不可)

4. 朗読会「左京と宇宙をさまよう一戦時少年が『日本沈没』を書くまで」

世田谷を拠点に活動するサークル・声を楽しむ朗読会が、小松作品に挑みます。

11月16日(土)13:30~15:45(開場13:00) [出演]声を楽しむ朗読会(司会・福島勝則 多摩美術

大学名誉教授)[会場]1階文学サロン[参加費]無料[定員]150名[申込方法]当日先着

5. どこでも文学館ワークショップ 「もっと朗読を楽しもう ~プロの読み方を聞いてやってみよう~」

『宇宙人のしゅくだい』を朗読します。プロの指導のもと、本格的な朗読を体験しましょう。

11月9日(土)14:00~16:30 [講師]緒方賢一(声優、俳優)、水田わさび(声優)

[会場]2階講義室[参加費]無料[対象・定員]中学生以上・抽選20名[申込方法]往復はがきに次の①~③を記入し、10月26日(土)必着にてお申込みください。①イベント名「朗読を楽しもう」②参加者全員の氏名・ふりがな・学年③ご連絡先(住所・電話番号)宛先:〒157-0062 世田谷区南烏山1-10-10 どこでも文学館係

助成:  平成31年度 文化庁 地域の博物館を中核としたクラスター形成事業

*関連催事 小松左京音楽祭

11月30日(土)16:00~18:30 成城学園 澤柳記念講堂ホール

詳細はこちらへ <https://readyfor.jp/projects/sakyokomatsuconcerto26834>

<https://3s-ca.jimdo.com>

世田谷文学館『小松左京展—D計画—』

本企画展は小松左京と対話する空間を目指したものです。

代表作「日本沈没」における、日本人の脱出そして未来のため、日本の持てる全ての力を注ぎ込んだ緻密かつ壮大なプロジェクト〈D計画〉の名を冠しています。

小松左京は、“壮大な宇宙と人類の関係”、“儂いからこそ愛しい人のありよう”を常に意識していました。

同時に、人類の未来の可能性や、ささやかな人の幸せを奪い去ろうとする戦争、地殻変動、異常気象などの“大いなる災い”を危惧し、物語を通じて人々に訴え続けました。

遠い先祖からの伝承、幼い頃からの体験、あらゆるジャンルの人との対話、多種多様なプロジェクトへの挑戦。一個人の想像力だけでなく、これらすべてが、小松左京とその物語を築き上げてきたのです。

小松左京の幼少期からの記録、ラジオの台本書き漫画家といったSF作家になるまでの試行錯誤、物語をつむぐための創作メモ、何度も推敲を重ねた直筆原稿、幻となった作品の残滓、そして疲れた精神を癒してくれた愛する猫たち。

これらすべてを、一つの空間に配した本企画展で、作品の外に広がる小松左京の世界を感じ対話していただければ、遺族としてこれほど嬉しいことはありません。

小松左京ライブラリ

Outline

- 展覧会名** 小松左京展—D計画—
- 会 期** 2019年10月12日(土)～12月22日(日)
- 会 場** 世田谷文学館 157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10
TEL 03-5374-9111 FAX 03-5374-9120 www.setabun.or.jp
- 開館時間** 10:00～18:00(展覧会入場、ミュージアムショップの営業は17:30まで)
- 休 館 日** 毎週月曜日(ただし10月14日、11月4日は開館し、翌日休館)
- 交通案内** 京王線:「芦花公園」駅南口より徒歩5分
小田急線:「千歳船橋」駅より京王バス(千歳烏山駅行)利用「芦花恒春園」下車徒歩5分
- 観 覧 料** 一般800(640)円、65歳以上・高校・大学生600(480)円、小・中学生300(240)円、
障害者手帳をお持ちの方400(320)円(但し大学生以下は無料)
※()内は20名以上の団体料金 ※10月18日(金)は65歳以上無料
- 主 催** 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館
- 特別協力** 小松左京ライブラリ
- 協 力** イオ、大阪芸術大学、日本SF作家クラブ
- 後 援** 世田谷区、世田谷区教育委員会
- 展覧会担当** 世田谷文学館学芸部 中垣理子、加藤信元

Images

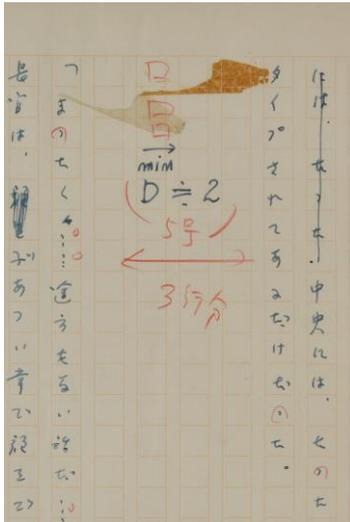


fig.5
『日本沈没』自筆原稿(第5章「沈み行く国」)より

「D計画」とは、『日本沈没』の作中で遂行されるプロジェクト名。

D-1計画(日本列島の地質的大変動の可能性について調査・研究)と、D-2計画(最悪の事態が起こった場合の日本民族とその資産の処置への計画)が極秘裏に動いていたが…。



fig.6
『日本沈没』創作メモ(一部)

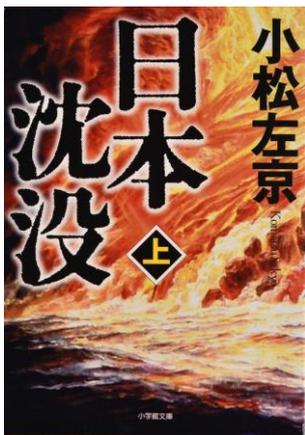


fig.7
『日本沈没』小学館文庫



fig.8
『愛用のキャノラ計算機』
『日本沈没』執筆にあたり、「日本列島を沈めるためにはどれだけエネルギーが必要か」を知るため、日本の重量を計算した。



fig.9
小松左京「自画像」
小松の大切なものたち、万年筆、眼鏡、酒、たばこ、漫画、愛猫と。



fig.10
「日本SF作家クラブ」の仲間とともに
1963年に創立した「日本SF作家クラブ」。一般的に認知されておらず、旅先の宿泊旅館では「サッカークラブ」の名で迎えられた。小松は星新一(後列右から2人目)、筒井康隆(後列左から3人目)らとともに「日本SF」の創世記を牽引した。

世田谷文学館 2019 年度コレクション展後期

「新青年」と世田谷ゆかりの作家たち

Summary

第1次世界大戦後の世界情勢と経済状況がめまぐるしく動く大正9(1920)年1月、雑誌「新青年」は発行されました。これからの未来を築いていく青年をターゲットとした雑誌は、都市文化とモダニズムを取り入れ、形成しながら、日本文学史においてかかせない存在へと変化していきました。青年たちの海外進出を謳った「新青年」は、海外ミステリーの紹介で人気を呼び、やがて、ミステリーにかかわらず多彩なジャンルの先駆者たちを次々と輩出していきます。「新青年」の影響は、現在のミステリーやSF小説にも及んでいます。

本展では、戦後一大ブームとなった横溝正史をはじめ、日本推理小説〈三大奇書〉のひとつ『黒死館殺人事件』を書いた小栗虫太郎、日本SF小説の父・海野十三といった「新青年」の全盛期を支えた世田谷ゆかりの作家たちを中心に、当館収蔵のコレクションをお目にかけます。

Outline

展覧会名 「新青年」と世田谷ゆかりの作家たち

会 期 2019年10月12日(土)～2020年4月5日(日) *会期中一部展示替えあり

会 場 世田谷文学館 1階展示室 157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10
TEL03-5374-9111 FAX 03-5374-9120 www.setabun.or.jp

開館時間 10:00～18:00(観覧会入場、ミュージアムショップの営業は17:30まで)

休 館 日 毎週月曜日(但し月曜が祝日の場合は開館し、翌平日休館)、年末年始(2019年12月29日～翌年1月3日)

交通案内 京王線:「芦花公園」駅南口より徒歩5分

小田急線:「千歳船橋」駅より京王バス(千歳烏山駅行)利用「芦花恒春園」下車徒歩5分

観 覧 料 一般200(100)円、高校・大学生150(120)円、65歳以上・小・中学生100(80)円、
障害者手帳をお持ちの方100(80)円(但し大学生以下は無料)

※()内は20名以上の団体料金 ※土・日曜、祝日は、中学生以下無料

主 催 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館

後 援 世田谷区、世田谷区教育委員会

展覧会担当 世田谷文学館学芸部 原辰吉



fig.11
横溝正史肖像



fig.12
「新青年」(博文館刊)



fig.13
「新青年」
昭和5年10月増大号
(博文館刊)



fig.14
横溝正史「鬼火」挿絵
画・竹中英太郎
「新青年」
昭和10年2月号 掲載

小松左京展—D計画— + コレクション展後期 広報用画像貸出申込書

世田谷文学館学芸部 佐野、原 行

FAX/ 03-5374-9120

Email/ webmaster@setabun.net

展覧会広報用の画像をご用意しています。ご希望の際は下記貸出条件をご確認のうえ、本申込書に必要事項をご記入いただき、ファックスまたはEメールにてお申し込みください。Eメール添付にてJPEGデータで画像をお送りいたします。

なお、本展紹介記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、掲載前に校正紙をお送りください。また、発行後、掲載誌を1部お送りください。

【広報用画像貸出条件】

- ◆画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ◆画像のトリミング、画像に文字を重ねるレイアウトはお控えください。
- ◆画像データは、ご使用後必ず消去してください。又、データを第三者に渡すことを禁じます。
- ◆インターネット上で掲載する場合、画像をコピーできないよう処置し会期終了後はWEBサイトから削除してください。

雑誌名・番組名・WEBサイト名 : _____

媒体種別 : 新聞・雑誌・フリーペーパー・テレビ・ラジオ・WEBサイト _____

発売・放送・更新予定日 : _____

御社名 : _____

御担当者名 : _____

御住所 : _____

Eメールアドレス : _____

電話番号 : _____

FAX番号 : _____

画像（コピーライトクレジットがあるものは、必ず画像掲載時に付記してください）

- 画像1 展覧会ポスター *P1掲載
- 画像2 自宅書斎にて(撮影:乙部順子) *P2掲載
- 画像3 生頼範義「小松左京氏肖像」(「小松左京マガジン第29巻表紙画」2008年) *P2掲載
- 画像4 「大阪万博」テーマ館スタッフ参加記念の盾 *P3掲載
- 画像5 『日本沈没』自筆原稿(第5章「沈み行く国」)より *P6掲載
- 画像6 『日本沈没』創作メモ(一部) *P6掲載
- 画像7 『日本沈没』小学館文庫 *P6掲載
- 画像8 『愛用のキャノラ計算機』 *P6掲載
- 画像9 小松左京「自画像」 *P6掲載
- 画像10 『日本SF作家クラブ』の仲間とともに *P6掲載

.....

画像11 横溝正史肖像 *P7掲載

画像12 「新青年」(博文館刊) *P7掲載

画像13 「新青年」昭和5年10月号(博文館刊) *P7掲載

画像14 横溝正史「鬼火」挿絵 画・竹中英太郎 *P7掲載